

時間割コード	KB8201	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	土屋 和子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

福祉と法（子ども、若者）

授業の概要/Course Overview

この授業では、自立への一歩を踏み出したみなさんのこれからの人生が、豊かで幸せなものになるために必要な社会福祉の法制度について学びます。社会福祉は、わたしたちの日常生活を支える大切な法制度ですが、その内容や仕組みが複雑で理解が難しい法制度でもあります。そこで、今後遭遇するかもしれない生活問題にはどのようなものがあるのかを理解してもらい、それらを回避するために必要な知識や適切な行動は何かについて、①青年期のライフイベントと家計管理、②子育てと仕事の両立を支える法制度・サービス、③子どもの貧困・格差の問題をテーマに、社会福祉制度の内容を概観し、基本的な法律知識を身につけます。

キーワード/Keyword(s)

福祉、法、人権、ライフプラン、家計管理、教育費、子育て支援、保育所、子どもの貧困、

到達目標/Learning Objectives

1. 将来の自立生活を豊かなものにするために、ライフプランが果たす役割について理解することができる。
2. 日常生活で遭遇するかもしれない様々な困難（＝生活問題）について認識した上で、それらの生活問題に対応した社会福祉制度について説明することができる。
3. 社会福祉に関する基本的な法律知識を理解することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス、ライフイベントを考えよう
 第2回 自立への一歩を踏み出そう ～ライフプランを作成する～
 第3回 35歳のあなたの生活と社会福祉
 第4回 保育所と幼稚園の違いは何だろう
 第5回 働きながら子育てをするためには
 第6回 子育て支援サービスを利用する
 第7回 子どもの貧困とは
 第8回 子どもの生活を支える社会福祉制度（45分）、試験

【授業外学修】

- （1）配布資料は、各自で熟読してください。
- （2）授業で取り扱った内容について、わからない用語などは、各自で調べて確認してください。
- （3）日頃から授業で取り上げるテーマについて、新聞や雑誌、テレビ、インターネット等を活用して幅広く情報を収集してください。
- （4）試験出題範囲の内容については、レジュメ等の配布資料を用いて必ず確認してください。

【アクティブ・ラーニング】

(1) 第1、2回については、各自ワークシートを作成した後、グループ・ディスカッションおよび発表を行います。

(2) 第3回～第7回の授業終了時は、振り返りシートを提出してもらいます。提出された振り返りシートは、コメントを付けて、次の授業で返却します。

履修上の注意/Notes

--

情報端末の活用

なし

成績評価基準/Evaluation criteria

A + : 到達目標の3点について、高いレベルで達成されている。
A : 到達目標の3点について、十分なレベル以上で達成されている。
B : 到達目標の3点について、必要なレベル以上で達成されている。
C : 到達目標の3点のうち2点について必要なレベル以上で達成されているが、1点について必要なレベルに達していない。
D : 到達目標の3点のうち2点以上について、必要なレベルに達していない。

成績の評価方法/Grading

期末試験: 60点 / 授業後に提出してもらおう振り返りシートの記述内容: 25点 (各5点×5回) / グループワークへの貢献度 15点 (各5点×3回)

教科書/Textbook(s)

備考	特になし。授業内で関連資料を配付します。
----	----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	子ども家庭福祉 第2版
著者名	木村容子・有村大士編
出版社	ミネルヴァ書房
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	医療福祉総合ガイドブック
著者名	NPO法人 日本医療ソーシャルワーク研究会編
出版社	医学書院
出版年	

ISBN	
教材費	

参考書3

書名	社会保障入門 2020
著者名	社会保障入門編集委員会
出版社	中央法規出版
出版年	
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8202	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	宮崎 忠恒				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

日本経済史入門（明治～戦間期）

授業の概要/Course Overview

明治から戦間期の日本経済について、映像とトピックス（事件・出来事）を通じて学ぶ。

キーワード/Keyword(s)

歴史、経済、経営、日本、映像、事件

到達目標/Learning Objectives

日本の経済・経営の歩みを理解できる。
日本の経済史・経営史上の事件・出来事を理解できる。
それらに基づいて、日本の経済・経営の現在・将来について考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 シラバスを用いたガイダンス
第2回 維新期の税制改革
第3回 足尾鋇毒事件
第4回 別子暴動事件
第5回 DVD観賞「近代産業の形成[幕藩体制～1913]」。小テスト。
第6回 米騒動
第7回 金融恐慌
第8回 DVD観賞「大戦景気から統制経済へ[1914～1937]」。小テスト。

【授業外学修】

- (1) 第2・3・4・6・7回の各回では、ポータルシステムを通じて配信する資料に事前に必ず目を通しておくこと。
- (2) 第5・8回の小テストに向けて、該当回の内容をよく振り返ること。

履修上の注意/Notes

- ・資料配布（ワード形式とPDF形式）をDream Campusで行う。
- ・配布資料は、事前に各自で印刷して持参するか、ノートPCで利用すること。
- ・遅刻は30分以内まで。
- ・私語厳禁。2回注意で受講中止。

情報端末の活用

履修上の注意を参照

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ ; 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
A ; 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
B ; 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
C ; 到達目標の3点について最低限のレベル以上で達成されている。
D ; 到達目標の3点について最低限のレベルに達していない。

成績の評価方法/Grading

小テスト ; 100点 (各50点×2回)

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8203	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	大沼 沙樹				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

経営管理論入門（経営管理の基礎を学ぶ）

授業の概要/Course Overview

本授業では、社会・経済活動の基盤である企業を舞台にして、企業を運営・管理する仕組みについて理解し、現実の経営現象を分析できるようになることを目的とする。伝統的な管理論の視点だけでなく、現代社会から見た諸学説の理解を通じて、現実に行われている問題を分析できる力を身につける。特に本授業では、経営管理の基礎となる企業や基本的な考え方の理解に焦点を当てる。

キーワード/Keyword(s)

企業の運営、企業の特徴、科学的管理法、人間関係論、組織

到達目標/Learning Objectives

- (1) 経営管理に関する理論・概念を理解し、基本的な考え方を身につけられる。
- (2) 現実の経営問題について、学んだ知識を基に自分で考え、自分の言葉で表現し、分析できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 インTRODクシヨン

- ・なぜ経営管理論を学ぶのか？：授業の進め方について説明する

第2回 管理とは

- ・企業を管理・運営・マネジメントするとはどういうことか

第3回 企業とは：企業の捉え方

- ・企業とは何か？：企業の捉え方・視点、企業を取り巻く環境

第4回 企業とは：法的な特徴

- ・企業の法的な特徴

第5回 経営管理の発展：科学的管理法

- ・作業能率を上げる方法を生み出す

第6回 経営管理の発展：人間関係論

- ・人は効率性だけで動くのか？

第7回 経営管理の発展：近代管理論

- ・近代的な管理論の考え方と組織とは

第8回 まとめと試験

- ・第1～7回の内容の整理と試験

【授業外学修】

- (1) 教科書の該当範囲やポータルシステムにアップされたPowerPointの資料を事前に読み、その中で気になった用語について書籍やインターネットを用いて調べて授業に臨むと、より一層理解が深まるので実施することが望ましい。

(2) 授業後には参考文献等も活用して、自分で積極的に深い知識を得られるように努めること。

【アクティブ・ラーニング】

授業内で2回小レポートを実施する。その日学んだテーマに関して、新聞、ビジネス雑誌、映像資料等を用いた事例を紹介するので、自分の主張や考えをまとめて書き、相手に伝える練習をする。また、授業内で自分の考えを発言したり、他者の考えを聞いたりすることで相互に理解を深める。

履修上の注意/Notes

- (1) 私語は、他の学生の授業の妨げとなるので慎むこと。
- (2) 遅刻を30分以上すると内容の理解が難しくなるので避けること。
- (3) 事前に授業資料をポータルシステム上にアップするため、授業内でPCやタブレットで閲覧することも可能だが、資料を紙で配布しないので必要な人は自分で用意すること。
- (4) 授業内で全体へ度々問いかけをするので、自分だったらどのように考えるかを常に念頭に置いて、授業に参加すること。
- (5) 受講生の理解度に応じて授業計画を変更することもある。

情報端末の活用

履修上の注意を参照

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：到達目標の2点について極めて高いレベルで達成されている。
A：到達目標の2点について高いレベル以上で達成されている。
B：到達目標の2点についておおむね以上のレベルで達成されている。
C：到達目標の2点について最低限のレベル以上において達成されている。
D：経営管理の基本的な知識や考え方を理解できておらず、到達目標が全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

試験70%（第8回）、小レポート30%

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	経営管理論
著者名	上野泰裕・馬場大治編著
出版社	中央経済社
出版年	2016
ISBN	
教材費	2400

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8204	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	星 純子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

地域社会学概論 基礎編

授業の概要/Course Overview

身近な現象を素材に、地域社会を理解する視点について考察する。地域とは何か、それが形作ってきたものは何か、また地域を形作ってきたものは何か、地域の中にはどのようなアクターがいるのかなどについて、社会学的に考察する。

キーワード/Keyword(s)

NPO、自治体、中央政府、コミュニティ、ネットワーク、子ども、高齢者、再生産労働、再開発

到達目標/Learning Objectives

身近な地域問題を事例に、地域の制度、枠組み、およびその歴史的変化について理解し、地域より広範囲の枠組み、例えば中央やグローバル化の問題を関連付けて考察することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス
2. 地域社会とは何だろう？
3. 地域を枠づける制度と組織
4. 地域に生きる集団とネットワーク
5. 地域が歴史を創り出す
6. 歴史が地域を創り出す
7. なぜ地域が大切か
8. まとめ
8. まとめ

【授業外学修】

授業前は新聞をチェックし、授業で取り上げた視点で考察する習慣をつけてください。

授業後は参考書に載っている参考文献を読み、授業内容をもとに身近な現象について考察してください。具体的には、新聞記事を切り抜き、それについて授業内容にもとづいた具体的な考察を行ってください。その新聞記事が示しているのは地域社会のいかなる現象か、その現象がなぜおこったのか、記事は何を言おうとしているのか、なぜそれがその媒体で取り上げられるのか、などについて考察してください。

【アクティブ・ラーニング】

毎回リアクションペーパーの提出を求めます。

履修上の注意/Notes

地域社会学概論応用編を続けて履修することが望ましいが、単独での受講も可能である。

情報端末の活用

特になし

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：地域社会の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A：地域社会の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B：地域社会の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C：地域社会の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D：地域社会の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができない。

成績の評価方法/Grading

試験(90%)、授業への参加(10%)で評価する。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	地方都市を考える 「消費社会」の先端から
著者名	貞包英之
出版社	花伝社
出版年	2015
ISBN	978-4763407559
教材費	1620

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8205	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小野寺 淳				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

古地図にみる世界観・国土観の変遷

授業の概要/Course Overview

自由な移動もままならなかった時代、人々はいかに世界観や国土観をイメージしてきたのであろうか。古今東西、この表現の一つが地図であった。世界各地に様々な古地図が残されており、代表的な古地図をもとに世界観・国土観の変遷を考えてみたい。ビデオやパワーポイントによって視覚的に古地図を示し、平易に解説する。これを踏まえて、ディスカッションを行い、人々の世界観や国土観の変遷を共有し理解を深める。

キーワード/Keyword(s)

古地図, 宗教, 世界観, 国土観, 江戸幕府撰国絵図, 長久保赤水, 伊能忠敬

到達目標/Learning Objectives

世界の主要な古地図に関する基礎知識を習得し、宗教と地図の関係、ならびに科学と地図の関係を考え、世界観や国土観の変遷を理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いたガイダンスー古地図とは何かービデオによる解説ー
- 第2回 宗教的世界観を示す地図（仏教系世界図・イスラム系世界図・キリスト教系世界図）
- 第3回 世界図の日本における受容（ビデオを含む解説）
- 第4回 宗教と世界観の関係を考えてみよう（グループごとに図書館などで調べ、発表用パワーポイントで発表し、教員の司会のもとでディスカッションを行う。）
- 第5回 江戸幕府が作成を命じた国絵図・日本図
- 第6回 長久保赤水の天文・地理と「改正日本輿地路程全図」
- 第7回 伊能忠敬の測量と「大日本沿海輿地全図」
- 第8回 科学の発達と地図の関係を考えてみよう（グループごとに図書館などで調べ、発表用パワーポイントで発表し、教員の司会のもとでディスカッションを行う。）

【授業外学修】

④と⑧の授業は、予習として、図書館のラーニング・コモンズなどを利用して、グループごとに意見交換をし、発表の準備を行う。その際、ネットで公開されている世界の古地図を参照するように努める。復習として、他のグループからの意見をもとに発表したパワポの内容を修正すること。

履修上の注意/Notes

受講数によっては発表の機会を増やすため、2回分の講義内容を1回に短縮する場合があります。発表はパワーポイントで行うことを原則とし、発表ではグループ全員が分担発表すること。質問は講義時間中、ならびにメール、オフィスアワー（水曜日2限）で受け付けます。メールアドレス：atsushi.onodera.5050@vc.ibaraki.ac.jp

情報端末の活用

PCは持参しなくても良い。ただし、持参した者は古地図所蔵機関のアーカイブズで古地図の閲覧をすること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：古地図に関する基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：古地図の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：古地図の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：古地図の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：古地図の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

発表内容（80%）、ディスカッションへの参加度（質問や意見など、20%）で評価する。なお、発表内容は、他グループからの意見をもとに修正した内容で評価する。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	絵図学入門
著者名	杉本・磯永・小野寺・中野・平井
出版社	東京大学出版会
出版年	2011
ISBN	9784130220231
教材費	

参考書2

書名	図説：日本古地図コレクション
著者名	三好・小野田
出版社	河出書房新社
出版年	2004
ISBN	4-309-76043-0
教材費	

参考書3

書名	世界の地図の歴史図鑑
著者名	ジョン＝レニー＝ショート著（小野寺・大島監訳）

出版社	柊風舎
出版年	2010
ISBN	9784903530406
教材費	

参考書4

書名	図説：世界古地図コレクション
著者名	三好唯義編
出版社	河出書房新社
出版年	1999
ISBN	978-4309726267
教材費	

参考書5

書名	シーボルトが日本で集めた地図
著者名	小野寺淳・小田匡保・野積正吉・川村博忠
出版社	古今書院
出版年	2016
ISBN	05779308
教材費	

参考書6

書名	日本地図史
著者名	秋岡武次郎
出版社	ミュージアム図書
出版年	1997
ISBN	4-944113-23-4
教材費	

参考書7

書名	近世測量絵図のGIS分析
著者名	平井松午・安里進・渡辺誠編
出版社	古今書院
出版年	2014
ISBN	9784772231589
教材費	

参考書8

書名	近世城下絵図の景観分析・GIS分析
著者名	平井松午編
出版社	古今書院
出版年	2019

ISBN	9784772231909
教材費	

参考書9

書名	大地の肖像 絵図・地図が語る世界
著者名	藤井譲治・杉山正明・金田章裕
出版社	京都大学学術出版会
出版年	2007
ISBN	9784876987122
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8206	ナンバリング	KB-GHS-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	金 光男				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

日本近代化とアジア

授業の概要/Course Overview

19世紀から20世紀に至る「近代史」の過程で、日本と東アジアの「近代」を考える。

キーワード/Keyword(s)

アジア、日本、近代、オリエンタリズム、帝国主義、資本主義のグローバリズム

到達目標/Learning Objectives

受講生が、近代の東アジアと日本との関係史について、事実の概略を把握し、その歴史的意味について説明することができることである。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 1、シラバスを用いたガイダンスおよび19世紀東アジア史の概説
- 2、「自由貿易帝国主義」と日本開国（グループ討論と、それに関する個々の小レポート）
【授業外学修】参考文献①pp.21-29を熟読してくること。
- 3、中央主権国家「日本」の形成：「文明」と「野蛮」（同上）
【授業外学修】参考文献②pp.10-43を熟読してくること。
- 4、工業化と「独立」と「帝国」の誕生（同上）
【授業外学修】参考文献①第一章pp.30-63を熟読してくること。
- 5、産業革命と日清戦争（学生ペアにより互いに作成した文書にコメントを書く）
【授業外学修】参考文献②pp.43-80を熟読してくること。
- 6、日露戦争と朝鮮植民地化（グループ討論と、それに関する個々の小レポート）
【授業外学修】参考文献②pp.82-142を熟読してくること。
- 7、産業革命の達成から植民地帝国へ（同上）
【授業外学修】参考文献①pp.209-270②pp.176-218を熟読してくること。
- 8、まとめと議論（45分）、期末試験（45分）
前半のまとめと議論では、日本近代化と東アジアの関係について各グループから論点を提起して全体で議論する。
【授業外学修】日本近代化と東アジアの関係について各グループで事前に話し合い、論点を整理しておくこと。さらにレジュメと参考文献

などで復習しておくこと。

履修上の注意/Notes

【授業外学修】で明記された学修をすることは、受講するための必要な準備であることを認識しておくこと。欠席しないこと、および遅刻は20分以内までとすることに注意してください。

情報端末の活用

第7回目の授業内でアンケートを実施する予定のため、PC, スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 近代日本・東アジア関係史の基本的な知識を十分に修得し、さらにその歴史的意味について説明できている。
A : 近代日本・東アジア関係史の基本的な知識を修得し、さらにその歴史的意味について説明できている。
B : 近代日本・東アジア関係史の基本的な知識を概ね修得し、さらにその歴史的意味について説明できている。
C : 近代日本・東アジア関係史の基本的な知識を最低限修得しており、さらにその歴史的意味について説明できている。
D : 近代日本・東アジア関係史の基本的な知識が修得できておらず、さらにその歴史的意味についての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験で70%、授業中に実施する「小レポート」と「学生間でのコメント記述」の内容を30%として評価します。

教科書/Textbook(s)

備考	レジメ等の資料を配布します。
----	----------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	日本の産業革命
著者名	石井寛治
出版社	講談社学術文庫
出版年	
ISBN	978-4-06-292147-
教材費	

参考書2

書名	日清・日露戦争をどう見るか
著者名	原 朗
出版社	NHK出版新書
出版年	
ISBN	978-4-14-088444-
教材費	780

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8207	ナンバリング	KB-GHS-132-GEP,JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	岩崎 敬子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

Introduction to Empirical Research and Quantitative Methods A

授業の概要/Course Overview

Students will conduct a quantitative research as a group using available datasets about a shared topic.

キーワード/Keyword(s)

empirical research, social challenges, quantitative analysis, group work

到達目標/Learning Objectives

1. To acquire an experience to conduct a quantitative research
2. To acquire an experience to collaborate as a group
3. To understand the process, strengths and limits of quantitative research to deepen understanding of various social challenges and existing studies

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

Class 1. Introduction
 Contents: Introduction of the course and discussion of some topics about social challenges in Japan and abroad

Class 2. Setting a research question and making a questionnaire
 Contents: Lecture on how to derive a research question and how to make a good questionnaire &
 Group work to derive a research question
 Homework: Literature survey

Class 3. Data analysis A
 Contents: Lecture on concepts of the quantitative data analysis & group work to make an analysis plan
 Homework: Search for related available data sets

Class 4. Data analysis B
 Contents: Lecture on how to analyze data & group work to analyze the dataset selected by themselves
 Homework: Make a data analysis plan

Class 5. Discussion
 Contents: Lecture on limitation of the data
 & group work to discuss about insights and limitation of their own data
 Homework: Analyze data and derive insights

Class 6. Preparation for the final presentation
 Contents: Lecture on how to present empirical research & group work to prepare the final presentation
 Homework: Organize a final presentation

Class 7. Final presentation

Contents: Final presentation of all groups
Homework: Be prepared for the final presentation
Class 8. Wrap up and review
Contents: Review (45minutes)

履修上の注意/Notes

Students are encouraged to be involved in a group study inside and outside the class.
This course has no specific prerequisites.

情報端末の活用

Please bring your own PC with excel to the classroom from class 3.
(For those who don't have PC or excel, please use the university's lending service)

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : Deeply understand the process, strengths and limits of quantitative methods and be able to apply them to their own research
A : Understand the process, strengths and limits of quantitative methods and be able to apply them to their own research
B : Basically understand the process, strengths and limits of quantitative methods
C : Understand the minimal level of the process, strengths and limits of quantitative methods
D : Did not achieve to understand the minimal level of the process, strengths and limits of quantitative methods and/or missed more than two classes.

成績の評価方法/Grading

final presentation (50%) class participation (30%) homework(20%)

教科書/Textbook(s)

備考	Reading materials will be distributed in the class.
----	---

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

English

実務経験のある教員による授業科目

民間企業で研究員として計量経済学の手法を用いた研究及びコンサルティング業務を行っている者が、その経験を活かして実証研究の方法を講義する。
--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB8208	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	法律・政治				
担当教員（ローマ字表記）	土屋 和子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

福祉と法（障害のある人、高齢者）

授業の概要/Course Overview

少子高齢化が進み人口減少社会になった日本で、みなさんが安心して生活を送るために必要な社会保障や社会福祉の法制度について学びます。社会保障や社会福祉は、わたしたちの日常生活を支える大切な法制度ですが、その内容や仕組みが複雑で理解が難しい法制度でもあります。そこで、今後遭遇するかもしれない生活問題にはどのようなものがあるのかを理解してもらい、それらを回避するために必要な知識や適切な行動は何かについて、①人口減少社会の日本の現在・未来、②障害のある人の生活に必要な福祉サービス、③高齢者の生活を支える年金制度と介護保険制度を取り上げ、社会保障・社会福祉制度の内容を概観し、基本的な法律知識を身につけます。

キーワード/Keyword(s)

福祉、法、人権、障害のある人、障害者福祉、高齢者、年金、介護、少子高齢化、人口減少社会

到達目標/Learning Objectives

1. 人口減少社会となった日本の現状について、理解することができる。
2. 日常生活で遭遇するかもしれない様々な困難について認識した上で、それらの生活問題に対応した社会保障・社会福祉制度について説明することができる。
3. 社会保障・社会福祉に関する基本的な法律知識を理解することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス、少子高齢化が進む日本
 第2回 人口減少社会の日本の現在・未来
 第3回 事故で突然障害者になったら
 第4回 障害のある人の生活を支える福祉法制度
 第5回 65歳のあなたのくらしと生活費
 第6回 高齢者の生活を支える年金制度
 第7回 高齢者の生活を支える介護保険制度
 第8回 福祉のまちづくり（45分）、試験（45分）

【授業外学修】

- （1）配布資料は、各自で熟読してください。
- （2）授業で取り扱った内容について、わからない用語などは、各自で調べて確認してください。
- （3）日頃から授業で取り上げるテーマについて、新聞や雑誌、テレビ、インターネット等を活用して幅広く情報を収集してください。
- （4）試験出題範囲の内容については、レジュメ等の配布資料を用いて必ず確認してください。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第2回～第7回の授業終了時は、振り返りシートを提出してもらいます。提出された振り返りシートは、コメントを付けて、次の授業で返却します。
- (2) ゲストスピーカーによる講演をお聞きして、グループ・ディスカッションおよび発表を予定しています。

履修上の注意/Notes

--

情報端末の活用

なし

成績評価基準/Evaluation criteria

A + : 到達目標の3点について、高いレベルで達成されている。
A : 到達目標の3点について、十分なレベル以上で達成されている。
B : 到達目標の3点について、必要なレベル以上で達成されている。
C : 到達目標の3点のうち2点について必要なレベル以上で達成されているが、1点について必要なレベルに達していない。
D : 到達目標の3点のうち2点以上について、必要なレベルに達していない。

成績の評価方法/Grading

期末試験: 60点 / 授業後に提出してもらおう振り返りシートの記述内容: 30点 (各5点×6回) / グループ・ディスカッションおよび発表への貢献度 10点
--

教科書/Textbook(s)

備考	特になし。授業内で関連資料を配付します。
----	----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	社会保障入門 2020
著者名	社会保障入門編集委員会
出版社	中央法規出版
出版年	
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	『医療福祉総合ガイドブック』
著者名	NPO法人 日本医療ソーシャルワーク研究会編
出版社	医学書院
出版年	

ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8209	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	宮崎 忠恒				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

日本経済史入門（復興期～高度成長期）

授業の概要/Course Overview

第2次大戦から1990年代の日本経済について、映像とトピックス（事件・出来事）を通じて学ぶ。

キーワード/Keyword(s)

歴史、経済、経営、日本、映像、事件

到達目標/Learning Objectives

日本の経済・経営の歩みを理解できる。
日本の経済史・経営史上の事件・出来事を理解できる。
それらに基づいて、日本の経済・経営の現在・将来について考察できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 シラバスを用いたガイダンス
第2回 農地改革
第3回 終身雇用
第4回 DVD観賞「戦時経済から復興経済[1937～1954]」。小テスト。
第5回 もはや戦後ではない
第6回 アベノミクスと日本初の長期経済計画
第7回 DVD観賞「高度成長の時代[1955～1973]」。小テスト。
第8回 DVD鑑賞「オイルショックとバブルを超えて[1973～2001]」

【授業外学修】

- (1) 第2・3・5・6回の各回では、ポータルシステムを通じて配信する資料に事前に必ず目を通しておくこと。
- (2) 第4・7回の小テストに向けて、該当回の内容をよく振り返ること。

履修上の注意/Notes

- ・資料配布（ワード形式とPDF形式）をDream Campusで行う。
- ・配布資料は、事前に各自で印刷して持参するか、ノートPCで利用すること。
- ・遅刻は30分以内まで。
- ・私語厳禁。2回注意で受講中止。

情報端末の活用

履修上の注意を参照

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ ; 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
A ; 到達目標の3点について高いレベル以上で達成されている。
B ; 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
C ; 到達目標の3点について最低限のレベル以上で達成されている。
D ; 到達目標の3点について最低限のレベルに達していない。

成績の評価方法/Grading

小テスト ; 100点 (各50点×2回)

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8210	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	大沼 沙樹				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

経営管理論入門（日本的経営を学ぶ）

授業の概要/Course Overview

本授業では、社会・経済活動の基盤である企業を舞台にして、企業を運営・管理する仕組みについて理解し、現実の経営現象を分析できるようになることを目的とする。伝統的な管理論の視点だけでなく、現代社会から見た諸学説の理解を通じて、現実に行き詰っている問題を分析できる力を身につける。特に本授業では、日本企業のマネジメントに焦点を当てる。

キーワード/Keyword(s)

企業の運営、日本的経営、組織文化、人的資源管理、ICTの活用

到達目標/Learning Objectives

- (1) 経営管理に関する理論・概念を理解し、基本的な考え方を身につけられる。
- (2) 現実の経営問題について、学んだ知識を基に自分で考え、自分の言葉で表現し、分析できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 インTRODクシヨン

- ・なぜ経営管理論を学ぶのか？：授業の進め方について説明する

第2回 日本企業におけるマネジメント：現状と特徴の理解

- ・日本企業の現状と日本的経営の特徴

第3回 日本企業におけるマネジメント：組織文化

- ・企業のカラー、社風

第4回 日本企業におけるマネジメント：チームで働く

- ・日本企業は本当にチームワークが良いのか？

第5回 日本企業におけるマネジメント：人的資源管理

- ・日本企業で働く人の処遇

第6回 日本企業におけるマネジメント：日本企業のコーポレート・ガバナンス

- ・企業統治の仕組み

第7回 日本企業におけるマネジメント：データの時代

- ・日本企業におけるICTの活用

第8回 まとめと試験

- ・第1～7回の内容の整理と試験

【授業外学修】

- (1) 教科書の該当範囲やポータルシステムにアップされたPowerPointの資料を事前に読み、その中で気になった用語について書籍やインターネットを用いて調べて授業に臨むと、より一層理解が深まるので実施することが望ましい。

(2) 授業後には参考文献等も活用して、自分で積極的に深い知識を得られるように努めること。

【アクティブ・ラーニング】

授業内で2回小レポートを実施する。その日学んだテーマに関して、新聞、ビジネス雑誌、映像資料等を用いた事例を紹介するので、自分の主張や考えをまとめて書き、相手に伝える練習をする。また、授業内で自分の考えを発言したり、他者の考えを聞いたりすることで相互に理解を深める。

履修上の注意/Notes

- (1) 私語は、他の学生の授業の妨げとなるので慎むこと。
- (2) 遅刻を30分以上すると内容の理解が難しくなるので避けること。
- (3) 事前に授業資料をポータルシステム上にアップするため、授業内でPCやタブレットで閲覧することも可能だが、資料を紙で配布しないので必要な人は自分で用意すること。
- (4) 授業内で全体へ度々問いかけをするので、自分だったらどのように考えるかを常に念頭に置いて、授業に参加すること。
- (5) 受講生の理解度に応じて授業計画を変更することもある。

情報端末の活用

履修上の注意を参照

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 到達目標の2点について極めて高いレベルで達成されている。
A : 到達目標の2点について高いレベル以上で達成されている。
B : 到達目標の2点についておおむね以上のレベルで達成されている。
C : 到達目標の2点について最低限のレベル以上において達成されている。
D : 経営管理の基本的な知識や考え方を理解できておらず、到達目標が全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

試験70% (第8回)、小レポート30%

教科書/Textbook(s)

備考	特になし
----	------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	経営管理論
著者名	上野泰裕・馬場大治編著
出版社	中央経済社
出版年	2016
ISBN	
教材費	2400

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8211	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	星 純子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

地域社会学概論 応用編

授業の概要/Course Overview

身近な現象を素材に、地域社会を理解する視点について考察する。地域とは何か、それが形作ってきたものは何か、また地域を形作ってきたものは何か、地域の中にはどのようなアクターがいるのかなどについて、社会的に考察する。前クォーターの地域社会学概論の続きだが、単独での履修も可能である。

キーワード/Keyword(s)

NPO、自治体、中央政府、コミュニティ、ネットワーク、子ども、高齢者、再生産労働、再開発

到達目標/Learning Objectives

身近な地域問題を事例に、地域の制度、枠組み、およびその歴史的变化について理解し、地域より広範囲の枠組み、例えば中央やグローバルゼーションの問題を関連付けて考察することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス、子育てと地域社会
2. 学校と地域
3. 自営業者たちと地域社会
4. 高齢化と地域社会
5. エスニック集団と地域社会（小テスト実施）
6. 地域社会の未来
7. 震災と地域社会
8. まとめ

【授業外学修】

授業前は新聞をチェックし、授業で取り上げた視点で考察する習慣をつけてください。

授業後は参考書に載っている参考文献を読み、授業内容をもとに身近な現象について考察してください。具体的には、新聞記事を切り抜き、それについて授業内容にもとづいた具体的な考察を行ってください。その新聞記事が示しているのは地域社会のいかなる現象か、その現象がなぜおこったのか、記事は何を言おうとしているのか、なぜそれがその媒体で取り上げられるのか、などについて考察してください。

【アクティブ・ラーニング】

毎回リアクションペーパーの提出を求めます。

履修上の注意/Notes

予習復習をしっかりとしてください。

情報端末の活用

特になし

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：地域社会の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

A：地域社会の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

B：地域社会の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。

C：地域社会の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。

D：地域社会の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

試験(90%)、授業への参加(10%)で評価する。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	地方都市を考える 「消費社会」の先端から
著者名	貞包英之
出版社	花伝社
出版年	2015
ISBN	978-4763407559
教材費	1620

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	△
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB8212	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	L P S	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小磯 重隆				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

仕事を考える

授業の概要/Course Overview

社会や職業について視野を広め自分の将来と大学時代の在り方について考えてみる機会とする。地域職業人を迎えてキャリアを考える。県内企業等での短期インターンシップをとおして、今後の職業選択や大学での勉学の在り方、さらに地方創生について考えていくことをねらいとする。

キーワード/Keyword(s)

職業観、インターンシップ、キャリア形成、社会人基礎力、地域協創人材

到達目標/Learning Objectives

授業で取り上げた職業や業界の理解をとおして社会の動向に興味関心を持つとともに、働くイメージを持ってそれに向かって必要なことを理解し、専門科目の学修につなぐことができる。また、地域の課題を知り、働くことの社会的役割を自覚することができる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回 シラバスを用いたガイダンスと導入

授業の概要、進め方、スケジュールの説明

大学生がキャリアを考えることの意味

データからみる私たちの働き方

第2回 「働くルール」を知る、雇用の多様化、働く意義、正社員/非正社員

茨城県で働くことの意義を考える

第3回 キャリア理論、自己分析、こだわる労働条件を考える

大学生活での目標や行動計画、学びの動機づけ、キャリアプランニング

第4回 地域の多様な職業について知る①（外部講師）

職業人の話を直に聞く、インターンシップの事前準備

第5回 地域の多様な職業について知る②（外部講師）

職業人の話を直に聞く、インターンシップの事前準備

第6回 業界・企業研究①

広い地域で企業を探してみる（大企業、グローバル企業）

第7回 業界・企業研究②

地元企業を探してみる（県内企業、県内誘致企業）

第8回 まとめ、試験

地域の職業人を招いて、職業観・勤労観、業界概説、キャリア形成の道程について講義をしていただき、働くことの意味を考えていく内容を含みます。

【授業外学修】

- (1) 職業人の講話に先立ち、事前に職業や地域社会について調べておくことが求められます
- (2) 多様な職業について業界や企業を調べ、自己分析し、自らのキャリアを構想します。
- (3) 短期インターンシップを主体的に考え、計画します。それに必要な事を調べ、検討します。

【アクティブラーニング】

- (1) グループディスカッション等を通じて他学生の価値観に触れ、自己分析に役立てます。
- (2) ミニレポートを通じて自分の考えを整理してプレゼンテーションします。

履修上の注意/Notes

短期インターンシップ参加を推奨しています。主体的に自ら企業や官公庁を探すことを求めます。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：仕事と社会の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：仕事と社会の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：仕事と社会の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：仕事と社会の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：仕事と社会の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

成績評価は平常評価（授業への積極的参加及びミニレポート等）70%、期末試験30%を合算して総合評価します。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は使用しない。 適宜資料を配布する。
----	--------------------------

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	△
専門分野の学力	△
課題解決能力	○
コミュニケーション力	○
実践的英語力	
社会人としての姿勢	◎
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

地域志向科目

○

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

「職業人を迎えてキャリアを考える」を授業内容に含む。地域職業人を招き、実務経験を有しているゲスト講師から、学生が直接話しを聞ける機会を設けている。

実践的教育から構成される授業科目

「インターンシップを体験する」を推奨している。短期インターンシップ等を目的に企業等を探し、体験することを求める教育内容を含んでいる。

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8214	ナンバリング	KB-GHS-132-GEP,JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	岩崎 敬子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

Introduction to Empirical Research and Quantitative Methods B

授業の概要/Course Overview

Students will conduct an original survey research as a group about a shared topic.

キーワード/Keyword(s)

empirical research, social challenges, quantitative analysis, group work

到達目標/Learning Objectives

1. To acquire an experience to conduct a quantitative research
2. To acquire an experience to collaborate as a group
3. To understand the process, strengths and limits of quantitative research to deepen understanding of various social challenges and existing studies

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

Class 1. Introduction
 Contents: Introduction of the course and discussion of some topics about social challenges in Japan and abroad

Class 2. Setting a research question and making a questionnaire
 Contents: Lecture on how to derive a research question and how to make a good questionnaire &
 Group work to derive a research question and make a questionnaire
 Homework: Literature survey

Class 3. Data analysis A
 Contents: Lecture on the concepts of quantitative data analysis & group work to make an analysis plan
 Homework: Distribute a questionnaire and make a dataset

Class 4. Data analysis B
 Contents: Lecture on how to analyze data & group work to analyze the dataset selected by themselves
 Homework: Make a dataset and make a data analysis plan

Class 5. Discussion
 Contents: Lecture on limitation of the data
 & group work to discuss about insights and limitation of their own data
 Homework: Analyze data and derive insights

Class 6. Preparation for the final presentation
 Contents: Lecture on how to present empirical research & group work to prepare the final presentation
 Homework: Organize a final presentation

Class 7. Final presentation

Contents: Final presentation of all groups
Homework: Be prepared for the final presentation
Class 8. Wrap up and review
Contents: Review (45minutes)

履修上の注意/Notes

Students are encouraged to be involved in a group study inside and outside the class.
This course has no specific prerequisites.

情報端末の活用

Please bring your own PC with excel to the classroom from class 3.
(For those who don't have PC or excel, please use the university's lending service)

成績評価基準/Evaluation criteria

A+ : Deeply understand the process, strengths and limits of quantitative methods and be able to apply them to their own research
A : Understand the process, strengths and limits of quantitative methods and be able to apply them to their own research
B : Basically understand the process, strengths and limits of quantitative methods
C : Understand the minimal level of the process, strengths and limits of quantitative methods
D : Did not achieve to understand the minimal level of the process, strengths and limits of quantitative methods and/or missed more than two classes.

成績の評価方法/Grading

final presentation (50%) class participation (30%) homework(20%)

教科書/Textbook(s)

備考	Reading materials will be distributed in the class.
----	---

参考書/Reference Book(s)

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	◎
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

English

実務経験のある教員による授業科目

民間企業で研究員として計量経済学の手法を用いた研究及びコンサルティング業務を行っている者が、その経験を活かして実証研究の方法を講義する。
--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等

時間割コード	KB8215	ナンバリング	KB-GHS-131-JEP	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	全学共通	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	金 光男				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

日本石炭産業とアジア

授業の概要/Course Overview

日本石炭産業の生成と消滅の歴史を「坑夫労務管理」と「アジア」との関連において見ていく。言い換えれば、幕末から第二次大戦後に至る石炭産業の展開過程を労務と国策の二側面から議論していく。

キーワード/Keyword(s)

炭鉱、坑夫、労務管理政策、工業化、国策、アジア

到達目標/Learning Objectives

近代石炭産業の展開過程を学ぶことを通じて、炭鉱の労務管理と国策の関連についての知識や考える力を身につけることができるようになること。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- (1)シラバスを用いたガイダンスと「幕末の炭坑と坑夫」
- (2)明治維新期の鉱業政策と炭鉱
【授業外学修】参考書①pp.21-29を熟読してくること。
- (3)官営炭坑と中国「直輸出」と囚人坑夫（グループ討論と個別小レポート）
【授業外学修】参考書①pp.30-43、68-72と参考書②pp.190-244を熟読してくること。
- (4)財閥系炭坑と「納屋制度」（同上）
【授業外学修】参考書②pp.284-329を熟読してくること。
- (5)産業革命展開と石炭産業（同上）
【授業外学修】参考書①pp.77-89を熟読してくること。
- (6)戦争と石炭産業（同上）
【授業外学修】参考書①pp.153-155、254-275をよく読んでくこと。
- (7)植民地からの坑夫動員（同上）
【授業外学修】参考書②pp.500-520をよく読んでくこと。
- (8)まとめの議論(45分)と期末試験(45分)

【授業外学修】レジメと既読の参考書などをよく確認しておくこと。

履修上の注意/Notes

授業外学修は受講するための準備であるので、しっかりとメモなどを取りながら熟読することが望まれる。よほどの事情が無い限り欠席はしないこと、また遅刻は20分経過まで認められます。

情報端末の活用

第7回目あるいは8回目でアンケートを実施する予定なので、PC、スマートフォン等を持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 近代石炭産業の労務管理政策について基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 近代石炭産業の労務管理政策について基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 近代石炭産業の労務管理政策について基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 近代石炭産業の労務管理政策について基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 近代石炭産業の労務管理政策について基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験(75%)、授業中での「小レポート」の内容(25%)による評価をする。

教科書/Textbook(s)

備考	レジメを配布します。
----	------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	日本の産業革命
著者名	石井寛治
出版社	講談社学術文庫
出版年	2012
ISBN	
教材費	

参考書2

書名	日本残酷物語：近代の暗黒
著者名	宮本常一ほか
出版社	平凡社
出版年	1995
ISBN	
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input checked="" type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input checked="" type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	<input type="radio"/>	受講条件等	
--------	-----------------------	-------	--

時間割コード	KB8222	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	小原 規宏				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

観光地理学概論

授業の概要/Course Overview

人間の経済活動のなかで、観光やツーリズムという現象を取り上げ、それらを人文地理学の立場から検討する。

キーワード/Keyword(s)

人文地理学、ハードツーリズム、ソフトツーリズム、テーマパーク、まちづくり、地域活性化

到達目標/Learning Objectives

講義では観光やツーリズムをハードツーリズムとソフトツーリズムに区分し、それぞれの立地プロセスや立地要因、および発展基盤を概説するとともに、それぞれがもたらす地域への影響や地域変容を国内外のさまざまな事例に基づいて読み解いていく。
最終的には、①観光やツーリズムという概念を理解することはもちろん、②観光やツーリズムがまちづくりや地域活性化にどのように役立っているのか、さらには③地域コミュニティとどのように関わっているのかを読み解けることを目標とする。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 観光地理学の考え方ーディズニーランドを事例としてー
- 第3回 観光とツーリズム
- 第4回 観光とツーリズムの歴史ー湯治と避暑ー
- 第5回 観光とツーリズムの発展①ーテーマパークとショッピングモールー
- 第6回 観光とツーリズムの発展②ー道の駅とグリーンツーリズムー
- 第7回 観光とツーリズムの発展③ーエコツーリズムとジオツーリズムー
- 第8回 観光とツーリズムを媒介とした地域活性化ー日本における観光まちづくりー

【授業外学修】

- (1) 第2回から第8回までの各回では、講義資料を事前に教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。
- (2) 講義内で紹介する参考文献や新聞などを利用して、各回のサブタイトルの含まれるキーワードについて、日本国内だけでなく、世界各地の取り組み事例について情報を集めておくこと。
- (3) 理解度の確認として、第4回に第2回から第4回までの授業内容を踏まえた小テストを実施するので、授業資料を確認しておくこと。

【アクティブラーニング】

- 全ての授業の最後にレスポンスシートを配布し、自身の理解の度合いについて振り返ってもらおう。
- また、第2回から第8回までの各回冒頭では、前回授業で提出されたレスポンスシートの内容を振り返る。

履修上の注意/Notes

- ・ 毎回ポータルシステムを通じて授業資料を配布する。教科書は指定しない。
- ・ 日頃から新聞などに掲載される地域に関する記事を気にかけるようにすること。
- ・ 毎回出席をとるので、必ず出席すること。
- ・ 原則として講義開始後、30分以降の遅刻は出席として認めない。
- ・ オフィスアワーは、木曜日の昼休み。

情報端末の活用

履修上の注意を参照

成績評価基準/Evaluation criteria

- A + : 到達目標の3点について極めて高いレベルで達成されている。
- A : 到達目標の3点について高いレベルで達成されている。
- B : 到達目標の3点についておおむね以上のレベルで達成されている。
- C : 到達目標の3点について最低限のレベルで達成されている。
- D : 到達目標の3点のうち1点以上について全く達成されていない。

成績の評価方法/Grading

第4回に実施する小テストと期末試験の成績を総合的に判断して評価する。
それぞれ30%と70%の割合で成績に反映される。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	ツーリズムの地理学：観光から考える地域の魅力
著者名	菊地俊夫
出版社	二宮書店
出版年	2018
ISBN	4817604360
教材費	

参考書2

書名	観光とまちづくり－地域を活かす新しい視点
著者名	海野敦史ほか
出版社	古今書院
出版年	2010
ISBN	4772231307
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	○
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8223	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員（ローマ字表記）	Chienwei YEH				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

人文地理学の考え方

授業の概要/Course Overview

私たちが住んでいる場所は、どのように形成され発展してきたのだろうか。人間は、自然や環境と向き合いながらそれぞれの土地で独自の文化を築き、住みやすい場所を作り上げてきた。グローバルに眺めてみると、文化的にも空間的にも多様な地域が形成されていることがわかる。地域の多様性について考えると同時に、いかに多様性が生まれたのか、そして地域の格差がいかに生まれたのかを考える。

キーワード/Keyword(s)

人文地理学、風水、方言、食文化、地域格差、移民

到達目標/Learning Objectives

人文地理学の基本的な考え方を理解できる。
人間がいかに自然や環境と向き合って、住みやすい場所を選び形成したかを理解できる。
人間の移動（移民）によって、いかに地域が形成されたかを認識できる。
地域によって文化や考え方が異なること、またその背景にある人文地理学的事象について理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 シラバスを用いたガイダンス～人間はどこに住むのか
- 第2回 風水と地理～地理学の歴史と風水の関係について学ぶ
- 第3回 地域格差はなぜ生まれたか？～なぜ富める国と貧しい国があるのかを考える
- 第4回 食と方言から地理を考える～ご当地グルメと方言はどのように生まれたのか
- 第5回 境界・国境から地理を考える～境界や国境をめぐる諸問題を解明する
- 第6回 移民から地理を考える～移民や難民は、なぜ現在も増加し続けているのか
- 第7回 多文化社会と都市～中華街にみる多文化共生
- 第8回 まとめと試験
授業前半で授業の総括を行い（45分）、後半でテストを実施する（45分）。

【授業外学習】

- (1) 講義内容は教務情報ポータルシステムにアップするので、講義終了後に必ず地図や配布資料と共に復習すること。
- (2) 授業において出された課題について、次週までに必ず学修してくること。
- (3) 授業時間中に見たビデオや資料について、授業終了後に内容を復習し、自分の考えをまとめること。

【アクティブ・ラーニング】

- (1) 第3回、第4回、第7回は、グループディスカッションを行う。
- (2) 毎回の授業終了時には、ミニツツペーパーによる理解度の確認を行う。

履修上の注意/Notes

- 1)高等地図帳（高校などで使用したもの）を持参してください。
- 2)正当な理由がない限り、遅刻および早退30分以上は欠席とみなします。
- 3)オフィスアワー：木曜日昼休み（事前にメールで連絡のこと）

情報端末の活用

- ・課題レポートについては、教務情報ポータルシステムを通じて提出すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：人文地理学の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらに社会との関連を十分に説明できている。
- A：人文地理学の基本的な知識と考え方を修得し、さらに社会との関連を説明できている。
- B：人文地理学の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらに社会との関連についてある程度説明できている。
- C：人文地理学の基本的な知識と考え方について最低限修得し、さらに社会との関連について最低限説明できている。
- D：人文地理学の基本的な知識と考え方について修得できておらず、さらに社会との関連についての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業中に課す課題／レポートなど（各10点x3回）および期末試験(70点)により評価する。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書はとくに指定しない
----	--------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	地理学概論
著者名	上野和彦, 椿真智子, 中村康子編著
出版社	朝倉書店
出版年	2015
ISBN	9784254168198
教材費	3630

参考書2

書名	はじめて地理学：身近なところから地球の「なぜ」を解き明かす
著者名	富田 啓介 著
出版社	ベレ出版

出版年	2017
ISBN	9784860645298
教材費	1870

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	△
コミュニケーション力	△
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8231	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	経済・経営				
担当教員（ローマ字表記）	内田 晋				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

エネルギー経済論

授業の概要/Course Overview

エネルギーは全ての人間活動や経済活動の源であるとともに、国際政治や地球環境といったグローバルな問題とも深く関わっており、エネルギーやそれを取り巻く現状について学んだ知識はあらゆる分野に応用することができる。この授業ではエネルギーそのものへの理解を深めるとともに、主に経済的な側面からエネルギーに関連した世界の現状や問題を扱う。

キーワード/Keyword(s)

エネルギー 持続可能社会 資源 再生可能エネルギー 化石燃料 地球温暖化

到達目標/Learning Objectives

エネルギーの種類やそれぞれの性質が理解できる。
環境問題、世界経済、政治などさまざまな問題とエネルギーとの関係について理解できる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス及びエネルギーの種類と性質
【授業外学修】（復習）身近な例を用いた練習問題を出すので、各自で解いておくこと。
- 第2回：【授業内容】エネルギーの歴史
【授業外学修】（予習）人類がこれまでエネルギーをどのように利用してきたか、各自で考えておくこと。
- 第3回：【授業内容】エネルギーと政治
【授業外学修】（予習）オイルショックについて各自で調べておくこと。
- 第4回：【授業内容】エネルギーと環境問題
【授業外学修】（復習）エネルギーと環境問題の複雑な関係性について理解すること。
- 第5回：【授業内容】資源の経済学
【授業外学修】（予習）「経済学」を履修した人はミクロ経済学の部分を確認しておくこと。
- 第6回：【授業内容】デカップリング
【授業外学修】（復習）2段階のデカップリングについて理解すること。
- 第7回：【授業内容】再生可能エネルギー
【授業外学修】（復習）それぞれの技術の長所と短所について理解すること。

第8回：【授業内容】未来のエネルギー技術（45分）、期末試験

【授業外学修】（予習）これまでの内容について資料などでよく確認しておくこと。

履修上の注意/Notes

情報端末の活用

授業では情報端末を使用しない。ただし、関連した内容について授業中に情報端末で調べることは許可する。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：エネルギーの基本的な知識を十分に修得し、さらにその経済や社会との関係について詳細に説明できている。
A：エネルギーの基本的な知識を修得し、さらにその経済や社会との関係について説明できている。
B：エネルギーの基本的な知識を概ね修得し、さらにその経済や社会との関係について概略を説明できている。
C：エネルギーの基本的な知識の修得と、その経済や社会との関係についての説明が最低限のレベルでできている。
D：エネルギーの基本的な知識が修得できておらず、さらにその経済や社会との関係についての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験：100%

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	エネルギーと社会
著者名	迫田章義, 堤敦司 編著
出版社	放送大学教育振興会
出版年	2019
ISBN	9784595319549
教材費	3600

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	○
課題解決能力	△
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	△
地域活性化志向	△

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	受講条件等	
--------	-------	--

時間割コード	KB8232	ナンバリング	KB-GHS-131-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	木3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	A	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	公共社会				
担当教員（ローマ字表記）	小松崎 将一				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

自然共生と地域づくり

授業の概要/Course Overview

「自然共生型社会」の実現に、地域住民がアイデアを出し、住民が参加して社会環境問題を解決する動きが芽生え始めています。さまざまな事例を通してそのような動きを知ることで、「自然共生」や「地域づくり」について考えます。

キーワード/Keyword(s)

自然共生、地域づくり、生物多様性、気候変動、農福連携、SDGs、食品ロス、アグロエコロジー、食農教育

到達目標/Learning Objectives

「地域の発展と環境保全」という日本や世界の動きを知り、社会問題解決の方策としての役割、意義や可能性を理解できるようになるとともに、そのような動きに関心をもち、自ら提案や考察ができるようになる。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

1. ガイダンス/自然共生の経緯－アグロエコロジーの展開を踏まえて－
2. 生物多様性と地域づくり
（リーディング&ライティング・ディスカッション）生物多様性を保全する事例紹介を通して社会的活動を知るとともに、関心・意見等を述べる。
3. 気候変動の緩和と農業・農村
（リーディング&ライティング・ディスカッション）一人一人が気候変動緩和の取り組みや事例等を調べ、発表資料を作成して紹介し、意見を述べる。
4. 地域を元気にする農福連携の取り組み
（リーディング&ライティング・ディスカッション）一人一人が農福連携の取り組みや事例等を調べ、発表資料を作成して紹介し、意見を述べる。
5. 男女共同参画社会と地域づくり
（リーディング&ライティング・ディスカッション）男女共同参画の取り組みや事例等を調べ、発表資料を作成して紹介し、意見を述べる。
6. SDGsの達成に向けた地域の取り組み
（グループワーク）紹介された事例等を対象に、SDGs達成に向けた取り組みとしての意義・課題などについてグループで討論して、取りまとめる。
7. 食と農の教育を見直そう
（ディベート）グループ討論の結果を発表して、地域を活性化させる食と農の教育について提案する。
8. 総括
（レポート）自然共生と地域づくりについて個別に意見を述べ、レポートを作成する。

【授業外学修】

(1) 講義資料は教務情報ポータルシステムにアップするので、必ず授業前に読んで、分からない用語などは、あらかじめ調べておくこと。

履修上の注意/Notes

極端な遅刻は欠席とする。授業で使用する記事等の配布は、事前にDream CampusからDLできるようにしておくので、(印刷/自分のデバイスで見れるようにしてくなど) 授業において必ず読める状態にしておくこと。

情報端末の活用

講義資料は教務情報ポータルシステムで事前配信するので、毎回の授業時にはPCを持参すること。

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 自然共生と地域づくりの基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
A : 自然共生と地域づくりの基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
B : 自然共生と地域づくりの基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
C : 自然共生と地域づくりの基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
D : 自然共生と地域づくりの基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業における発表の内容とプレゼン資料、討論参加および期末試験を評価する。

教科書/Textbook(s)

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	地域と響き合う農学教育の新展開：農学系現代GPの取り組みから
著者名	中島紀一編
出版社	筑波書房
出版年	2008
ISBN	4811903234
教材費	

参考書2

書名	有機農業大全：持続可能な農の技術と思想
著者名	澤登 早苗 著・文・その他
出版社	コモンズ
出版年	
ISBN	9784861871641
教材費	3200

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	◎
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	○
実践的英語力	△
社会人としての姿勢	○
地域活性化志向	◎

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

行政政策や地域づくりに携わっている者が、オムニバス形式により、その経験を活かして、具体的な地域課題解決の視点を講義する。

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	○	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8401	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	LS (法経除く)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育 (基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	日本国憲法				
担当教員 (ローマ字表記)	今川 奈緒				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法と人権I

授業の概要/Course Overview

何らかのかたちで「人権」という言葉にふれたことがある人は多いと思う。「人権擁護」、「人権侵害」等、保護されることを前提に「人権」について語られることが多いが、はたしてその根拠はどこにあるのであろうか。本講義では、法的に保護されるべき「人権」の内容、そしてその保護の方法について学ぶことにする。

教育職員免許状取得希望者は、題目「憲法と人権Ⅱ」(担当：今川奈緒)と合わせて2単位を取得すること。

キーワード/Keyword(s)

日本国憲法、基本的人権

到達目標/Learning Objectives

憲法と人権Ⅰ(今川担当)では、基本的人権について総論的に学ぶこととする。本講義で憲法と人権についての基本理論を学んだ後、憲法と人権Ⅱ(今川担当)では、実際の問題への法の適用方法について学んでいく。單元ごとに実際の事件を基にした設題を提示する。講義を聴きながら解答を考えることで、各人権の法的な理論についての理解を深めていく。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 包括的基本権と法の下での平等
- 第3回 精神的自由権(1)—思想・良心の自由・信教の自由と政教分離
- 第4回 精神的自由権(2)—表現の自由・学問の自由
- 第5回 人身の自由・経済的自由
- 第6回 社会権(1)—生存権
- 第7回 社会権(2)—教育権
- 第8回 参政権・国務請求権・国民の義務

定期試験

【授業外学修】

(1)各單元ごとに、事例と設問を示したうえで、その解答を考えながら日本国憲法の基礎知識について学ぶ予定である。授業の際に、次回の授業で扱う事例と設問を提示するので、該当範囲の参考書等を読んでおくことが望ましい。

(2)授業の際に配布したレジュメを基に、参考書やD1-LAW(法律情報のデータベース)を用いて、学修を進めること。不明な点については、授業中に配布する出席カードに質問を記述してほしい。次回の授業開始時に質問に対する回答の時間を設けるので、わからないことをそのままにしないこと。

【アクティブ・ラーニング】

理解度の確認を行うために、授業期間内に2～3回、授業内で扱った設例の応用問題を解いてもらう予定である。

履修上の注意/Notes

- ・授業の単元ごとにレジユメを配布するが、参考書等を併用して学習を進めてください。
- ・授業開始後30分を経過してからの入室は遅刻とみなします。遅刻2回=1欠席とします。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：基本的人権についての基本的な知識と考え方を十分に修得し、法的な観点に基づき説明できている。
- A：基本的人権の基本的な知識と考え方を修得し、法的な観点に基づき説明できている。
- B：基本的人権の基本的な知識と考え方を概ね修得し、法的な観点に基づき説明できている。
- C：基本的人権の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、法的な観点に基づき説明できている。。
- D：基本的人権の基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験100%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書の指定はありません。授業毎にレジユメを配布します。
----	------------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	いちばんやさしい憲法入門
著者名	初宿正典, 高橋正俊, 米沢広一, 棟居快行 著
出版社	有斐閣
出版年	2017
ISBN	9784641220911
教材費	1600

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	

地域活性化志向	
---------	--

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	無	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8402	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	金3	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	LS（法経除く）	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	今川 奈緒				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法と人権Ⅱ

授業の概要/Course Overview

- ・基本的人権Ⅰ(担当：今川奈緒)で学んだ人権の基本理論を踏まえ、人権にかかわる紛争解決の方法について学んでいく。基本的人権に関する重要な判例を素材として講義を進める予定である。したがって、本講義では公法上の争訟の仕組みについて学んだうえで、判例の検討を進めることとする。
- ・なお、本授業の後半では、統治制度の基礎について学ぶこととする。
- ・教育職員免許状取得希望者は、題目「憲法と人権Ⅰ」(担当：今川奈緒)と合わせて2単位を修得すること。

キーワード/Keyword(s)

判例研究、行政事件訴訟、行政不服審査、統治制度、基本的人権、自己決定権、新しい人権

到達目標/Learning Objectives

- ・本授業の目的は、各人権の法的な救済方法についての理解を深めることである。授業毎に実際の事件を基にした設題を提示するので、講義を聴いたうえで、各自解答を考えてほしい。公法上の争訟の仕組み、保障される権利の性質を理解すること、憲法の役割について自分なりの見解を示せるようになることが、本授業の到達目標である。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

- 第1回 オリエンテーション
 - 第2回 公法上の紛争解決の仕組み
 - 第3回 基本的人権に関する基本判例についての検討
 - 第4回 自己決定権に関する判例についての検討
 - 第5回 新しい人権についての検討
 - 第6回 統治の原理
 - 第7回 統治のシステム①—議会・内閣・裁判所
 - 第8回 統治のシステム②—地方自治・憲法改正
- 定期試験は行わず、レポートを課します。

【授業外学修】

(1)各単元ごとに、事例と設問を示したうえで、その解答を考えながら日本国憲法の基礎知識について学ぶ予定である。授業の際に、次回の授業で扱う事例と設問を提示するので、該当範囲の参考書等を読んでくれることが望ましい。

(2)授業の際に配布したレジュメを基に、参考書やD1-LAW(法律情報のデータベース)を用いて、学修を進めること。不明な点については、授業中に配布する出席カードに質問を記述してほしい。次回の授業開始時に質問に対する回答の時間を設けるので、わからないことをそのまま

にしないこと。

【アクティブ・ラーニング】

理解度の確認を行うために、授業期間内に2～3回、授業内で扱った設例の応用問題を解いてもらう予定である。

履修上の注意/Notes

- ・ 授業期間内に課すレポート(70%)、および授業時間中に課す応用問題への解答(30%)により評価します。
- ・ 授業開始後30分以上の遅刻が2回あった場合は、欠席1回に該当します。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+ : 各人権の法的な救済方法および統治制度についての基本的な知識と考え方を十分に修得し、その仕組みについて説明できている。
- A : 各人権の法的な救済方法および統治制度についての基本的な知識と考え方を修得し、その仕組みについて説明できている。
- B : 各人権の法的な救済方法および統治制度についての基本的な知識と考え方を概ね修得し、その仕組みについて説明できている。
- C : 各人権の法的な救済方法および統治制度の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、その仕組みについて説明できている。
- D : 各人権の法的な救済方法および統治制度の基本的な知識と考え方が修得できていない。

成績の評価方法/Grading

・ レポート評価 70% / 授業内課題 30%

教科書/Textbook(s)

備考	教科書は特定しません。授業毎にレジユメを配布します。
----	----------------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	基本的人権の事件簿：憲法の世界へ
著者名	棟居快行, 松井茂記, 赤坂正浩, 笹田栄司, 常本照樹, 市川正人 著
出版社	有斐閣
出版年	2015
ISBN	9784641281356
教材費	1900

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	○
専門分野の学力	
課題解決能力	
コミュニケーション力	

実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供	無	受講条件等	
--------	---	-------	--

時間割コード	KB8403	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	飛田 綾子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法と人権

授業の概要/Course Overview

社会に生きる限り、人は法と無関係ではいられない。よって法に関する正しい知識を学ぶことは結局、自分自身のためになる。同時に自分と様々な面で異なる人々と共存していく現代に必要な知識でもある。この授業では「法とは何か」「憲法はなぜ存在するのか」という話から始め、生存権や法の下での平等、表現の自由といった、聞いたことはあっても具体的イメージはしにくい権利や自由を、法学の初心者にも分かりやすく、様々な裁判例を挙げながら説明する。

キーワード/Keyword(s)

法、憲法、人権、権利、自由、裁判、立憲主義、違憲審査制度

到達目標/Learning Objectives

- ①日本国憲法が保障している人権の内容や裁判例についての基本的知識を説明できる。
- ②日本の人権に関する各国との相違を把握し、あるべき姿を自分で考察できるようになる。
- ③憲法による人権保障の意義、ひいては憲法の存在意義を自分で考察できるようになる。
- ④脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることが出来る。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス／法や憲法の存在意義／人身の自由（刑事手続きなど）／国務請求権①（裁判を受ける権利など）

【授業外学修】授業内容の復習・確認。普段ニュースで目にする刑事事件と授業で学んだ内容を比較して、刑事手続きのあるべき姿を考察する。

【アクティブ・ラーニング】（ミニッツペーパー）憲法のイメージや問題点として考えているものを自由に書いてもらう。

第2回：【授業内容】国務請求権②（国家賠償請求権）／参政権（一票の較差など）／社会権①（社会権を保障する意味、生存権・教育を受ける権利）

【授業外学修】授業内容の復習・確認。国家賠償請求権のハードルが高い理由、一票の格差の是正の必要性、社会保障の存在意義を各自で考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）朝日訴訟などの有名な判例の趣旨の確認。

第3回：【授業内容】社会権②（労働基本権）／職業選択の自由（中小企業保護政策の是非、財産権の保護のあり方、薬局距離制限違憲判決など）

【授業外学修】日本の労働環境で問題視されている点を調べてみる。職業選択の自由と社会権の関係について対立点なども含めて考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】（授業前レポート）一票の格差の厳密な是正の是非。（150字程度）
（復習テスト）著名な判決の内容や、違憲審査基準の存在理由などの知識の確認。

第4回：【授業内容】思想・良心の自由（日の丸・君が代強制問題など）／信教の自由①（信教の自由の存在意義、個人の信教の自由のあり方など）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。思想・良心の自由や信教の自由の日本の現状について考える。成立にあたって議論を呼んだ共謀罪について調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）日の丸君が代強制問題に関する判例の趣旨の確認。

第5回：【授業内容】信教の自由②（政教分離原則の各国での相違、公式参拝問題など）／表現の自由①（表現の自由の存在意義、規制方法など）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。政教分離の是非について、欧米諸国だけでなく、世界規模で考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】（授業前レポート）共謀罪の概要とその是非。（150字程度）

（復習テスト）信教の自由や学問の自由に関する裁判についての知識の確認。

第6回：【授業内容】表現の自由②（報道の自由、名誉毀損的表現をめぐる判例、性表現の規制の是非など）／学問の自由（先端技術の限界）／包括的権利①（プライバシーの権利）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。ヘイトスピーチの規制のあり方や、マスメディアの報道の改善点について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）表現の自由に関する有名な裁判や違憲審査基準などの知識を確認。

第7回：【授業内容】包括的権利②（自己決定権など）／法の下での平等（夫婦別姓・再婚禁止期間など）
／基本的人権のまとめ①（外国人の人権、企業の雇用契約のあり方と憲法の関係など）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。自己決定権を認めることの利益・不利益について考えてみる。日本の外国人をめぐる法的問題について具体的に調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】法の下での平等（復習テスト）著名な判例の趣旨の確認。

第8回：【授業内容】基本的人権のまとめ②（「公共の福祉」とは何かなど）（45分）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。授業で触れた裁判について総ざらいしてみる。

就職試験の際に民間企業は思想・良心に関わる質問を行うことが出来るか、考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】（授業前レポート）平等の実現方法とは何か。ヘイトスピーチ規制法などと関連付けて、各自の意見を自由に記述。（150字程度）

（復習テスト）公共の福祉をめぐる学説の確認等。

履修上の注意/Notes

①授業での疑問点は、教員に質問したり、参考書の該当箇所を読んだりして早めに解決すること。

②授業前レポートとして、憲法上の論点に関する自分の考えや法律の是非について調べてもらうことがあるので、各自積極的に調べること。

③遅刻は授業開始後15分まで認める。 ④参考書購入費以外に係る金額はない。

教育職員免許状取得希望者は、題目「憲法と政治制度」（担当：飛田綾子）と合わせて2単位を修得すること。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点を十分に把握した上で、憲法の存在意義について説得力のある議論を展開できる。さらに脚注など十分に体裁の整ったレポートを作成できる。

A：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の存在意義を考察できる。一定程度体裁の整ったレポートを作成できる。

B：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の存在意義を概ね考察し、レポートで考えを伝えることが出来る。

C：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の存在意義を説明できる。

D：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点を修得できておらず、憲法の存在意義を説明できない。

成績の評価方法/Grading

授業内に行う復習テスト、授業前レポート：35点/期末レポート65点。授業中の説教的発言や質問は成績評価に加味する。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし。授業内で資料を配布する。
----	-----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	論点日本国憲法：憲法を学ぶための基礎知識
著者名	安念潤司 [ほか] 編著
出版社	東京法令出版
出版年	2014
ISBN	4809063070
教材費	2860

参考書2

書名	ブリッジブックシリーズ 憲法
著者名	横田耕一
出版社	信山社出版
出版年	
ISBN	4797223014
教材費	2200

参考書3

書名	憲法判例集 第11版
著者名	野中俊彦
出版社	有斐閣
出版年	
ISBN	4641091609
教材費	1100

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎

実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB8404	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火5	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育（基盤・教養・教育学部以外の教職）				
科目名	日本国憲法				
担当教員（ローマ字表記）	飛田 綾子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法と政治制度

授業の概要/Course Overview

近年憲法改正の必要が叫ばれている。改正の必要性を考えるためには、議論の高揚している背景を理解し、憲法に関する基礎知識が必要である。憲法は人権保障と並んで国会、内閣、裁判所といった統治機構について規定している。こうした機関が持つ権限や、日本国憲法の成立経緯や天皇制、平和主義や地方自治などを、憲法学の従来の議論や有名な裁判、また他国との比較的視点を盛り込みながら説明する。

キーワード/Keyword(s)

憲法、政治、政治制度、デモクラシー、国会、裁判所、地方自治、平和主義

到達目標/Learning Objectives

- ①日本国憲法に規定された国会、内閣、裁判所の各々の権限、役割分担や、日本国憲法の成立経緯や安全保障や国際貢献などの憲法9条をめぐる問題、地方自治や財政の規定について説明できる。
- ②現在議論されている憲法改正について、憲法学の基本的知識を踏まえた上で自ら考察できる。
- ③各国の政治制度と日本国憲法を比較し、共通点や相違点を把握できる。
- ④脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることが出来る。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス／憲法とは何か（憲法の種類・区分等）／立憲主義とは何か／デモクラシーとは何か
【授業外学修】授業内容の確認・復習。立憲主義の必要性について考えてみる。
【アクティブ・ラーニング】（ミニツツペーパー）憲法のイメージや、日本国憲法の問題点として考えているものについて各自自由に書いてもらう。

第2回：【授業内容】国会①（国民の代表の意味、国会の地位と組織、衆参両院の関係など）
【授業外学修】授業内容の確認・復習。国会議員を国民が罷免出来ない理由を考察。
【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）国民の「代表」の意味や国会の種類、国会議員の特権などについての知識を確認する。

第3回：【授業内容】内閣（内閣・総理の権限、衆議院の解散の根拠、各国の政治制度との比較など）
【授業外学修】授業内容の確認・復習。世界各国の政治ニュースを調べてみる。
【アクティブ・ラーニング】（授業前レポート）国会審議の活性化について各自の意見を自由に書いてもらう。（150字程度）
（復習テスト）日本の議院内閣制と各国の政治制度の相違点の理解を確認する。

第4回：【授業内容】裁判所（司法の範囲と限界、立法・行政との関わり方、裁判員制度の是非など）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。実際の裁判への不満等と授業内容と照合してみる。

【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）司法権の意味や最高裁の権限等についての知識を確認する。

第5回：【授業内容】日本憲法史／天皇制（象徴天皇制の意義など）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。明治憲法の改正がなぜ必要だったのか考察。

【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）戦前と戦後の日本の政治体制の変更点等についての知識を確認する。

第6回：【授業内容】平和主義（憲法9条の解釈・自衛隊の合憲性、平和安全法制の内容など）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。安全保障と国際貢献の在り方について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）9条に関する政府解釈や学説についての理解の確認。

（授業前レポート）憲法第9条に抱いているイメージを自由に記述。（150字程度）

第7回：【授業内容】財政（予算と法律の違いなど）／地方自治（地方自治の元での住民の権利など）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。財政収支均衡の重視策や道州制導入の是非を考察。

【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）予算や地方自治における基本知識の確認。

第8回：【授業内容】憲法保障（各国の違憲審査制度との相違など）／憲法改正（各国の経緯）（45分）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。憲法改正の必要性について考察。

【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）違憲審査制度に関する基本知識や各国の憲法改正の概要の確認。

履修上の注意/Notes

①疑問点は教員に質問したり、参考書の該当箇所を読んだりして早めに解決すること。

②授業前レポートとして、最近のニュースと授業内容を関連付けて各自の意見を150字程度で説明してもらうことがあるので、各自積極的に調べる。③遅刻は授業開始後15分まで認める。④参考書購入費以外に係る金額はない。

教育職員免許状取得希望者は、題目「憲法と人権」（担当：飛田綾子）と合わせて2単位を修得すること。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：日本国憲法の統治機構に関する基本知識を十分に修得し、各国との比較的观点を持ちながら、憲法改正について説得力のある議論を、体裁の整ったレポートで十分に展開できる。

A：日本国憲法の統治機構に関する基本知識を修得し、憲法改正について一定程度の議論ができる。

B：日本国憲法の統治機構に関する基本知識を概ね修得し、憲法改正について説明できる。

C：日本国憲法の統治機構に関する基本知識について最低限の修得をしており、憲法改正について最低限の説明ができる。

D：日本国憲法の統治機構に関する基本知識について修得できておらず、憲法改正について説明できない。

成績の評価方法/Grading

授業内に行う復習テスト、授業前レポート：35点、期末レポート65点。授業中の積極的発言や質問は、成績評価に加味する。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし。授業内で資料を配布する。
----	-----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	論点日本国憲法：憲法を学ぶための基礎知識
著者名	安念潤司 [ほか] 編著
出版社	東京法令出版
出版年	2014
ISBN	4809063070
教材費	2860

参考書2

書名	いちばんやさしい憲法入門
著者名	初宿正典 [ほか] 著
出版社	有斐閣
出版年	2017
ISBN	4641220913
教材費	1760

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB0821	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T(フレックス、Bコース)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	日本国憲法				
担当教員(ローマ字表記)	飛田 綾子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法と人権

授業の概要/Course Overview

社会に生きる限り、人は法と無関係ではいられない。よって法に関する正しい知識を学ぶことは結局、自分自身のためになる。同時に自分と様々な面で異なる人々と共存していく現代に必要な知識でもある。この授業では「法とは何か」「憲法はなぜ存在するのか」という話から始め、生存権や法の下での平等、表現の自由といった、聞いたことはあっても具体的イメージはしにくい権利や自由を、法学の初心者にも分かりやすく、様々な裁判例を挙げながら説明する。

キーワード/Keyword(s)

法、憲法、人権、権利、自由、裁判、立憲主義、違憲審査制度

到達目標/Learning Objectives

- ①日本国憲法が保障している人権の内容や裁判例についての基本的知識を説明できる。
- ②日本の人権に関する各国との相違を把握し、あるべき姿を自分で考察できるようになる。
- ③憲法による人権保障の意義、ひいては憲法の存在意義を自分で考察できるようになる。
- ④脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることが出来る。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス／法や憲法の存在意義／人身の自由(刑事手続きなど)／国務請求権①(裁判を受ける権利など)

【授業外学修】授業内容の復習・確認。普段ニュースで目にする刑事事件と授業で学んだ内容を比較して、刑事手続きのあるべき姿を考察する。

【アクティブ・ラーニング】(ミニッツペーパー)憲法のイメージや問題点として考えているものを自由に書いてもらう。

第2回：【授業内容】国務請求権②(国家賠償請求権)／参政権(一票の較差など)／社会権①(社会権を保障する意味、生存権・教育を受ける権利)

【授業外学修】授業内容の復習・確認。国家賠償請求権のハードルが高い理由、一票の格差の是正の必要性、社会保障の存在意義を各自で考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】(復習テスト)朝日訴訟などの有名な判例の趣旨の確認。

第3回：【授業内容】社会権②(労働基本権)／職業選択の自由(中小企業保護政策の是非、財産権の保護のあり方、薬局距離制限違憲判決など)

【授業外学修】日本の労働環境で問題視されている点を調べてみる。職業選択の自由と社会権の関係について対立点なども含めて考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】（授業前レポート）一票の格差の厳密な是正の是非。（150字程度）
（復習テスト）著名な判決の内容や、違憲審査基準の存在理由などの知識の確認。

第4回：【授業内容】思想・良心の自由（日の丸・君が代強制問題など）／信教の自由①（信教の自由の存在意義、個人の信教の自由のあり方など）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。思想・良心の自由や信教の自由の日本の現状について考える。成立にあたって議論を呼んだ共謀罪について調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）日の丸君が代強制問題に関する判例の趣旨の確認。

第5回：【授業内容】信教の自由②（政教分離原則の各国での相違、公式参拝問題など）／表現の自由①（表現の自由の存在意義、規制方法など）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。政教分離の是非について、欧米諸国だけでなく、世界規模で考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】（授業前レポート）共謀罪の概要とその是非。（150字程度）

（復習テスト）信教の自由や学問の自由に関する裁判についての知識の確認。

第6回：【授業内容】表現の自由②（報道の自由、名誉毀損的表現をめぐる判例、性表現の規制の是非など）／学問の自由（先端技術の限界）／包括的権利①（プライバシーの権利）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。ヘイトスピーチの規制のあり方や、マスメディアの報道の改善点について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）表現の自由に関する有名な裁判や違憲審査基準などの知識を確認。

第7回：【授業内容】包括的権利②（自己決定権など）／法の下での平等（夫婦別姓・再婚禁止期間など）
／基本的人権のまとめ①（外国人の人権、企業の雇用契約のあり方と憲法の関係など）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。自己決定権を認めることの利益・不利益について考えてみる。日本の外国人をめぐる法的問題について具体的に調べてみる。

【アクティブ・ラーニング】法の下での平等（復習テスト）著名な判例の趣旨の確認。

第8回：【授業内容】基本的人権のまとめ②（「公共の福祉」とは何かなど）（45分）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。授業で触れた裁判について総ざらいしてみる。

就職試験の際に民間企業は思想・良心に関わる質問を行うことが出来るか、考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】（授業前レポート）平等の実現方法とは何か。ヘイトスピーチ規制法などと関連付けて、各自の意見を自由に記述。（150字程度）

（復習テスト）公共の福祉をめぐる学説の確認等。

履修上の注意/Notes

①授業での疑問点は、教員に質問したり、参考書の該当箇所を読んだりして早めに解決すること。

②授業前レポートとして、憲法上の論点に関する自分の考えや法律の是非について調べてもらうことがあるので、各自積極的に調べること。

③遅刻は授業開始後15分まで認める。 ④参考書購入費以外に係る金額はない。

教育職員免許状取得希望者は、題目「憲法と政治制度」（担当：飛田綾子）と合わせて2単位を修得すること。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点を十分に把握した上で、憲法の存在意義について説得力のある議論を展開できる。さらに脚注など十分に体裁の整ったレポートを作成できる。

A：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の存在意義を考察できる。一定程度体裁の整ったレポートを作成できる。

B：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の存在意義を概ね考察し、レポートで考えを伝えることが出来る。

C：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点、憲法の存在意義を説明できる。

D：日本国憲法の人権に関する基本知識や海外との相違点を修得できておらず、憲法の存在意義を説明できない。

成績の評価方法/Grading

授業内に行う復習テスト、授業前レポート：35点/期末レポート65点。授業中の説教的発言や質問は成績評価に加味する。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし。授業内で資料を配布する。
----	-----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	論点日本国憲法：憲法を学ぶための基礎知識
著者名	安念潤司 [ほか] 編著
出版社	東京法令出版
出版年	2014
ISBN	4809063070
教材費	2860

参考書2

書名	ブリッジブックシリーズ 憲法
著者名	横田耕一
出版社	信山社出版
出版年	
ISBN	4797223014
教材費	2200

参考書3

書名	憲法判例集 第11版
著者名	野中俊彦
出版社	有斐閣
出版年	
ISBN	4641091609
教材費	1100

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	◎
専門分野の学力	
課題解決能力	◎
コミュニケーション力	◎

実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

○

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB0822	ナンバリング	KB-GHS-131	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T(フレックス、Bコース)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度前期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	日本国憲法				
担当教員(ローマ字表記)	飛田 綾子				
シラバス用備考	【前期】				

授業題目/Title

憲法と政治制度

授業の概要/Course Overview

近年憲法改正の必要が叫ばれている。改正の必要性を考えるためには、議論の高揚している背景を理解し、憲法に関する基礎知識が必要である。憲法は人権保障と並んで国会、内閣、裁判所といった統治機構について規定している。こうした機関が持つ権限や、日本国憲法の成立経緯や天皇制、平和主義や地方自治などを、憲法学の従来の議論や有名な裁判、また他国との比較的观点を盛り込みながら説明する。

キーワード/Keyword(s)

憲法、政治、政治制度、デモクラシー、国会、裁判所、地方自治、平和主義

到達目標/Learning Objectives

- ①日本国憲法に規定された国会、内閣、裁判所の各々の権限、役割分担や、日本国憲法の成立経緯や安全保障や国際貢献などの憲法9条をめぐる問題、地方自治や財政の規定について説明できる。
- ②現在議論されている憲法改正について、憲法学の基本的知識を踏まえた上で自ら考察できる。
- ③各国の政治制度と日本国憲法を比較し、共通点や相違点を把握できる。
- ④脚注のつけ方をはじめとした論文の体裁を把握し、自らの考えをレポートで伝えることが出来る。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回：【授業内容】シラバスを用いたガイダンス／憲法とは何か（憲法の種類・区分等）／立憲主義とは何か／デモクラシーとは何か
【授業外学修】授業内容の確認・復習。立憲主義の必要性について考えてみる。
【アクティブ・ラーニング】（ミニツツペーパー）憲法のイメージや、日本国憲法の問題点として考えているものについて各自自由に書いてもらう。

第2回：【授業内容】国会①（国民の代表の意味、国会の地位と組織、衆参両院の関係など）
【授業外学修】授業内容の確認・復習。国会議員を国民が罷免出来ない理由を考察。
【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）国民の「代表」の意味や国会の種類、国会議員の特権などについての知識を確認する。

第3回：【授業内容】内閣（内閣・総理の権限、衆議院の解散の根拠、各国の政治制度との比較など）
【授業外学修】授業内容の確認・復習。世界各国の政治ニュースを調べてみる。
【アクティブ・ラーニング】（授業前レポート）国会審議の活性化について各自の意見を自由に書いてもらう。（150字程度）
（復習テスト）日本の議院内閣制と各国の政治制度の相違点の理解を確認する。

第4回：【授業内容】裁判所（司法の範囲と限界、立法・行政との関わり方、裁判員制度の是非など）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。実際の裁判への不満等と授業内容と照合してみる。

【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）司法権の意味や最高裁の権限等についての知識を確認する。

第5回：【授業内容】日本憲法史／天皇制（象徴天皇制の意義など）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。明治憲法の改正がなぜ必要だったのか考察。

【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）戦前と戦後の日本の政治体制の変更点等についての知識を確認する。

第6回：【授業内容】平和主義（憲法9条の解釈・自衛隊の合憲性、平和安全法制の内容など）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。安全保障と国際貢献の在り方について考えてみる。

【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）9条に関する政府解釈や学説についての理解の確認。

（授業前レポート）憲法第9条に抱いているイメージを自由に記述。（150字程度）

第7回：【授業内容】財政（予算と法律の違いなど）／地方自治（地方自治の元での住民の権利など）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。財政収支均衡の重視策や道州制導入の是非を考察。

【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）予算や地方自治における基本知識の確認。

第8回：【授業内容】憲法保障（各国の違憲審査制度との相違など）／憲法改正（各国の経緯）（45分）

【授業外学修】授業内容の確認・復習。憲法改正の必要性について考察。

【アクティブ・ラーニング】（復習テスト）違憲審査制度に関する基本知識や各国の憲法改正の概要の確認。

履修上の注意/Notes

①疑問点は教員に質問したり、参考書の該当箇所を読んだりして早めに解決すること。

②授業前レポートとして、最近のニュースと授業内容を関連付けて各自の意見を150字程度で説明してもらうことがあるので、各自積極的に調べる。③遅刻は授業開始後15分まで認める。④参考書購入費以外に係る金額はない。

教育職員免許状取得希望者は、題目「憲法と人権」（担当：飛田綾子）と合わせて2単位を修得すること。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

A+：日本国憲法の統治機構に関する基本知識を十分に修得し、各国との比較的观点を持ちながら、憲法改正について説得力のある議論を、体裁の整ったレポートで十分に展開できる。

A：日本国憲法の統治機構に関する基本知識を修得し、憲法改正について一定程度の議論ができる。

B：日本国憲法の統治機構に関する基本知識を概ね修得し、憲法改正について説明できる。

C：日本国憲法の統治機構に関する基本知識について最低限の修得をしており、憲法改正について最低限の説明ができる。

D：日本国憲法の統治機構に関する基本知識について修得できておらず、憲法改正について説明できない。

成績の評価方法/Grading

授業内に行う復習テスト、授業前レポート：35点、期末レポート65点。授業中の積極的発言や質問は、成績評価に加味する。

教科書/Textbook(s)

備考	教科書：特になし。授業内で資料を配布する。
----	-----------------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	論点日本国憲法：憲法を学ぶための基礎知識
著者名	安念潤司 [ほか] 編著
出版社	東京法令出版
出版年	2014
ISBN	4809063070
教材費	2860

参考書2

書名	いちばんやさしい憲法入門
著者名	初宿正典 [ほか] 著
出版社	有斐閣
出版年	2017
ISBN	4641220913
教材費	1760

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input checked="" type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input checked="" type="radio"/>
実践的英語力	<input type="radio"/>
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	<input type="radio"/>

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB0871	ナンバリング	KB-GHS-111	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T(フレックス、Bコース)	対象年次	2年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	グローバル・スタディーズ				
担当教員(ローマ字表記)	村上 雄太郎				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

国際語としての日本語の発想

授業の概要/Course Overview

外国人学習者にとって理解しにくいと思われる事柄を取り上げ、学習者の気持ちを汲んで解説する。単なる言語表現の説明のみならず、学習者の目を通して見た日本人の言語生活や言語行動の底に流れる発想やその背景にある感性まで紹介する。

キーワード/Keyword(s)

関連づけ、格関係、関係節、同格節、内の関係による名詞修飾、外の関係による名詞修飾

到達目標/Learning Objectives

コミュニケーションがスムーズになるように、日常生活に必要な日本語力を養成する。

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

【授業内容】

第1回目 授業の進め方について

第2回目 関連づけを表す表現「のだ」の場合

第3回目 関連づけを表す表現「わけだ」の場合

第4回目 日本語における名詞修飾の構造

第5回目 日本語の名詞修飾—英語との比較(「内の関係」の場合)

第6回目 日本語の名詞修飾—英語との比較(非限定的名詞修飾節の場合)

第7回目 日本語の名詞修飾—英語との比較(「外の関係」で内容節の場合)

第8回目 日本語の名詞修飾—英語との比較(「外の関係」で「相対性」の名詞の場合)

(45分)、試験(45分)

【授業外学修】

- ・指定した参考資料を事前に読んでおくこと。
 - ・授業終了時に示す課題については調べておくこと。
 - ・自分が関心をもった分野の文献に目を通すこと。
 - ・次の時間は、予習がされているものとして授業を進行する。
- 次回の授業範囲の予習と前回の授業内容の復習を前提とした演習に、講義を加える。

・次回の授業範囲を予習し、学術用語や慣用語句の意味などを理解しておくこと。

その他に、期末試験があり、それぞれ十分時間をかけて準備するようしておくこと。

・留学生の場合、「学術日本語ⅡC(発展)」も履修することが望ましい。

履修上の注意/Notes

- ・外国人留学生の視点に立った授業（外国人留学生のニーズとレベルに合わせた授業）。
- ・予習と復習をする必要がある。
- ・2/3以上の出席がない場合は不合格とする。
- ・遅刻3回で1回欠席とする。30分以上の遅刻は欠席とする。

- ・オフィス・アワー：水曜日、午後4時～5時半まで

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：日本語の発想と日本語的な表現の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：日本語の発想と日本語的な表現の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：日本語の発想と日本語的な表現の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：日本語の発想と日本語的な表現の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：日本語の発想と日本語的な表現の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

授業への積極的参加を重視する。概ね、授業への貢献度などの学習状況（20%）、期末試験（80%）で評価する。8回目に期末試験を行う。

教科書/Textbook(s)

備考	授業時にプリント等を配布する。
----	-----------------

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	日本人の発想、日本語の表現
著者名	森田良行
出版社	中央新書 1416
出版年	
ISBN	4-12-101416-2
教材費	

参考書2

書名	日本語文法のしくみ
著者名	井上優
出版社	研究社
出版年	

ISBN	4-327-38301-5
教材費	

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	<input type="radio"/>
専門分野の学力	<input type="radio"/>
課題解決能力	<input type="radio"/>
コミュニケーション力	<input type="radio"/>
実践的英語力	
社会人としての姿勢	<input type="radio"/>
地域活性化志向	

アクティブ・ラーニング型科目

--

PBL科目

--

地域志向科目

--

使用言語

日本語のみ

実務経験のある教員による授業科目

--

実践的教育から構成される授業科目

--

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--

時間割コード	KB0872	ナンバリング	KB-GHS-111-COE	科目分野	一般講義
開講曜日・時限	火6	単位数	1	日英区分	日本語
対象学生	T(フレックス、Bコース)	対象年次	1年次～4年次		
開講年度	2020年度後期 共通教育(基盤・教養・教育学部以外の教職)				
科目名	法律・政治				
担当教員(ローマ字表記)	馬渡 剛				
シラバス用備考	【後期】				

授業題目/Title

生き残るための政治学

授業の概要/Course Overview

我が国が少子高齢化や財政難などの課題を抱える中、我々は厳しい現実と向き合いながらも生きていく必要がある。「生き残り」を鍵概念に据える本講義では、日本はどのような課題に直面しているのか、中央・地方政府の取り組みについて概説するとともに、その時々ニュースや時事問題も積極的に取り上げながら、政治や行政の仕組みについて説明する。

キーワード/Keyword(s)

政治、行政、少子高齢化、人口減、消滅自治体、地方創生、防災・減災

到達目標/Learning Objectives

第一に、政治の仕組みや基礎概念を説明できること、第二に、国政や地方政治を理解する上で重要な諸制度(議院内閣制、二元代表制、選挙制度など)の説明ができること、第三にどのような危機に日本が直面しているのか説明できることを目標とする。

ディプロマ・ポリシー: ②専門分野の学力、⑤地域活性化志向

授業及び授業外の学修/Lesson plans & homework

第1回:【授業内容】シラバスを用いたガイダンス

【授業外学修】現在起きている政治にかかわる諸問題について、シラバスを参照しながらあらかじめ調べておく。

第2回:【授業内容】日本における地方政治の存在意義

【授業外学修】地方紙を参照し、あらかじめ地方政治に関して興味あるトピックスを調べておく。

第3回:【授業内容】茨城県の政治・行政について理解を深める

【授業外学修】地方紙を参照し、あらかじめ地方政治に関して興味あるトピックスを調べておく。

第4回:【授業内容】東日本大震災と自助・共助・公助

【授業外学修】国の防災計画等を参照し、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。

第5回:【授業内容】消滅自治体の衝撃と地方の生き残り策

【授業外学修】増田寛哉『地方消滅』を参照し、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。

第6回:【授業内容】生き残るために何ができるのか

【授業外学修】国や地方の総合戦略等を参照し、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。

第7回:【授業内容】地方創生と政治行政の役割

【授業外学修】国や地方の総合戦略や総合計画を参照し、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。

第8回:初級条例策定講座

【授業外学修】事前に紹介する参考文献を参照し、分からない用語などはあらかじめ調べておくこと。

履修上の注意/Notes

講義開始後、30分以上の遅刻は欠席として扱う。オフィス・アワーは火曜日の昼休み。シラバスの順番通りに講義していく予定だが、場合によって（政治・経済・社会状況によって）変更されることもある。

情報端末の活用

成績評価基準/Evaluation criteria

- A+：政治の基本的な知識と考え方を十分に修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- A：政治の基本的な知識と考え方を修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- B：政治の基本的な知識と考え方を概ね修得し、さらにその仕組みについて説明できている。
- C：政治の基本的な知識と考え方について最低限の修得をしており、さらにその仕組みについて説明できている。
- D：政治の基本的な知識と考え方が修得できておらず、さらにその仕組みについての説明ができていない。

成績の評価方法/Grading

期末試験を行う。専門的な知識に関して50%（評価の観点②は到達目標の②）、課題の特定や解決に向けた知識に関して50%（評価の観点⑤は到達目標の⑤）。

教科書/Textbook(s)

教科書1

書名	震災とコミュニティ－その力・限界・可能性－
著者名	茨城大学地方政治論ゼミナール
出版社	志學社
出版年	2015
ISBN	
教材費	2000

備考	教科書は用いない。 参考書：茨城大学地方政治論ゼミナール編著『震災とコミュニティ－その力・限界・可能性－』志學社、2015年、2000円。増田寛哉『地方消滅』中公新書、2014年、820円。
----	--

参考書/Reference Book(s)

参考書1

書名	地方消滅
著者名	増田寛哉
出版社	中公新書
出版年	2014
ISBN	
教材費	820

関連するディプロマ・ポリシーの要素・能力

世界の俯瞰的理解	
専門分野の学力	○
課題解決能力	○
コミュニケーション力	
実践的英語力	
社会人としての姿勢	
地域活性化志向	○

アクティブ・ラーニング型科目

PBL科目

地域志向科目

使用言語

実務経験のある教員による授業科目

実践的教育から構成される授業科目

社会人リカレント教育（専門コース・カスタムコース）

授業科目提供		受講条件等	
--------	--	-------	--